

1－9					
主題	介護施設と地域の「間」を埋める専門学校の取組み				
副題	日常生活と介護現場の「間」に必要なもの				
キーワード 1	地域連携	キーワード 2	専門学校	研究(実践)期間	12 ヶ月

法人名	学校法人) 敬心学園	事業所名	日本福祉教育専門学校
発表者(職種)	宮下美和(学生)、松林菜々(学生)		
共同研究(実践)者	王晓鳳(学生)、リライ(学生)、チョウエン(学生)、他		

電 話	03-3982-2511	FAX	
-----	--------------	-----	--

事業所紹介	1984 年の創立以来、日本福祉教育専門学校は福祉教育の先駆けとして、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士などの専門職を育成してきました。長年にわたり培ってきた教育ノウハウと実績により、現場で求められる実践力を養うカリキュラムを提供し、即戦力となる人材を輩出しています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

介護・福祉関係の専門学校として、地域との交流の場として「認知症カフェ」の取り組みを行ってきたが、実施内容や参加対象者が限定されている印象もあり、幅広い展開にはなっていなかった。地域との交流プログラムは、介護施設や介護に関わる関連団体などが取り組んでいるが、専門学校として取り組む目的や意義が何であるのか、定義がはっきりとしていないと感じられた。

今回、「地域との交流」という大枠のテーマの中で、専門学校ならではの取組みを模索し、いくつかの方向性を探っていった結果、新たな方向性を見出すことができたので、報告することとした。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

介護施設は、「認知症カフェ」や「地域に開かれた施設体験会」などを実施しており、地域への情報発信とともに地域包括ケアに向けた取り組みが進んでいる。その結果、地域での介護に関する理解の向上や、将来の利用者獲得などに繋がっている。反面、介護施設は、介護保険法によって提供するサービスの範囲が決まっていることもあり、やれること、やれないことが決まっている側面がある。専門学校は、実務を提供している訳ではないため、活動の自由度が高いことと合わせて、本来の目的である学生の専門知識の獲得を両立する仕組みを考えて、今回のプログラムを実施し、専門学校ならではの可能性と今後の展開について示唆を得たいと考えた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

専門学校ならではの下記の取組みを実施

- ① 「日常生活で使える知識やテクニック」を地域向けに発表(座学)

- ・学生は、学んだことのアウトプットをすることで、知識の蓄積・定着を行う。
- ・地域住民の方は、日常に役に立つ知恵を学ぶ機会となる（実学）。

② 「介護を身近に楽しむ会」として、介護の実際を経験してもらう

- ・車イス体験、リフト体験。
- ・おむつの種類と知識について説明と実演（白十字社様とコラボ実施）。
- ・介護食の工夫について、自助具づくり。

③ 日常の介護未満の困りごとのヒヤリング

- ・介護に直接関係ない小さな困りごとをヒヤリングし、介護予備軍の方のニーズを把握。
- ・スマホを使いこなす若者（学生）が、年配者に便利な使い方をレクチャーする。

④ 介護メーカーと介護施設の橋渡し

- ・ヒヤリングの結果から新たなニーズとして介護メーカーや施設などへと繋げる。
- ・介護メーカーの商品開発につながるアンケートを介護実習で実施（実施計画中）。

《4. 取り組みの結果》

実施回数 12 回、参加総数 158 名に質的調査を実施した。

- ① 介護の種類（施設の違いや各種サービスについて）や日常生活での予防策など、専門学校ならではの情報発信となった。
- ② 介護グッズの理解促進により、介護を身近なものに感じてもらえた。
- ③ 日常の困りごとを把握することと合わせて、スマホの便利な使い方などを伝え、世界を広げてもらえた。
- ④ 学生の実習機会を生かして、介護メーカーの商品開発に向けたアンケート実施（実施中）。

《5. 考察、まとめ》

専門学校ならではの取り組みを模索し、各種のイベントなどを実施した中で、日常と介護現場の間に埋めるべき隙間があると感じた。非常にあいまいで幅広い「間」であるため、すべてをすぐに解決するのは難しいが、将来、介護保険法の範囲も変わってくる可能性がある中で、介護で必要になるもの、介護の前に必要になるものがあるのではないかと考えた。取り組みを始めたばかりだが、この「間」を埋めることが、将来の介護業界の発展につながると感じた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央規範

《8. 提案と発信》

今後、要介護者は確実に増えていく時代の中で、介護現場だけでなく、その前段階でも必要な取り組みを整理し、介護につなげていく必要があると感じたので、この視点での取り組みが広がることを期待する。